明治の条約書 ―ヨーロッパ―

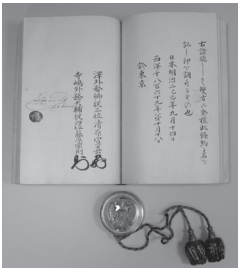
前期:2010年11月4日(木)～2011年2月25日(金)／後期: 3月1日(火)～6月30日(木)

主な展示史料：大日本国瑞典国条約書 (スウェーデン＝ノルウェー)、通商航海条約（英国、オランダ、フランス等)、日西修好交通条約（スペイン)、修好通商航海条約（ギリシャ）他
※展示史料は前期と後期で変更となりますのでご注意ください。

幕末・維新の激動期を経て、開国・近代化への道を歩みはじめた明治日本。しかし近代国家として国際社会に登場するまでには、諸外国との外交交渉におけるさまざまな苦労があった。外交史料館では、所蔵600点の戦前期の条約書の中から、明治期に結ばれたヨーロッパ諸国との修好通商条約の調印書・批准書を紹介する企画展「明治の条約書―ヨーロッパ―」を開催している。

展示Ⅰ　明治初期の通商条約

嘉永6年のペリー来航をきっかけに、米国など5カ国と修好通商条約を結んだ徳川幕府は、明治維新に至るまでにポルトガル、ベルギー、イタリアなどとも修好条約を締結する。そして明治新政府成立後も、開国を国家の基本方針の一つとし、ヨーロッパ各国と相次いで同様の修好条約を結ぶこととなる。本展では、こうした明治初期に結ばれた条約書の中から、スウェーデン＝ノルウェー、スペイン、北ドイツ連邦、オーストリア＝ハンガリーの4カ国と交わした条約書を紹介する。



日本国墺地利洪牙利国修好通商航海条約（日本・オーストリア＝ハンガリー修好通商航海条約／前期展示）

大日本国瑞典国条約書（日本・スウェーデン＝ノルウェー修好通商航海条約／後期展示）

展示Ⅱ　明治20年代後半～30年代前半の諸通商条約

開国を果たした日本の次の課題は、不平等条約を改正し、欧米諸国と対等の位置に立つことであった。明治4年の岩倉使節団を皮切りに、寺島宗則、井上馨、大隈重信らの歴代外相による交渉を経て、陸奥宗光外相時代の明治27年に日英通商航海条約を締結。この後、他の欧米諸国とも相次いで改正条約が結ばれることとなった。これらの改正条約から本展では、英国、オランダ、オーストリア＝ハンガリー等との条約書を展示する。これらの史料は、日本が欧米列強に並び立つまでの軌跡を示すものである。

外務省外交史料館
東京都港区麻布台1-5-3　TEL:03-3585-4511　開館時間:10:00～17:30　閲覧料:無料
http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/　休館日:土日、祝祭日、年末年始、その他